

日本女子大学

紀要

文学部

67

中務集注釈(一〇)……………	高野晴代・他……………	(1)
石川淳「紫苑物語」論―観念性/物質性、 エクリチュールと出会うことの難しさ……………	山口俊雄……………	(21)
長唄《京鹿子娘道成寺》に摂取された謡 ―旋律とアクセント……………	配川美加・坂本清恵……………	(49)
日本女子大学日本文学科蔵『狐の草子』―注釈編……………	石井倫子・他……………	(65)
万葉集の新出断簡……………	田中大士……………	(87)
村上春樹とポール・オースターの「テクスト」を読む 孤児たち―「個」を生きたるための記憶と想像力……………	内山加奈枝……………	(101)
第二次世界大戦時のデトロイトと 公民権ユニオニズムの興隆……………	藤永康政……………	(115)
「春日権現験記絵」にみる記録の説話化 ―巻一「金峯山御幸事」・巻二「寛治御幸事」を通して……………	坪内綾子……………	(135)
て形接続の文における自動詞・他動詞……………	江田すみれ……………	(1)
熊本県葦北郡芦北町田浦方言の二型アクセント体系……………	松森晶子……………	(15)
Paraphrasing the "Other": Connecting Participants in Japanese Conversation……………	町沙恵子……………	(39)
東京から―蕭紅書簡(下) 翻訳と注釈……………	平石淑子……………	(55)
大和国における灌漑用溜池の築造と 野井戸の掘削に関する基礎的研究……………	伊藤寿和……………	(77)
諏訪器械製糸業勃興と地域養蚕業 ―郡別統計を中心に……………	井川克彦……………	(91)
平成二十九年卒業論文題目……………		(153)

『日本女子大学 紀要 文学部』

編集規程

1. 本紀要は、文学部所属の専任教員に対して、研究を発表する場を提供することを目的とし、毎年3月に発行する。
2. 本紀要の編集は、文学部教授会において選出される2名の委員の構成する紀要委員会が行う。委員長は委員の互選による。
3. 本紀要に執筆できるのは文学部所属の専任教員とする。
4. 本紀要に掲載する論文は、単著・共著を問わない。ただし、共著の場合は、執筆者の少なくとも1名が本規程第3項に該当するものでなければならない。
5. 日本語論文の長さは400字詰め原稿用紙で30～100枚程度とする。欧文の場合はこれに相当する長さとする。
6. 紀要委員会は日本文学科・英文学科・史学科の各学科に400字詰め原稿用紙で同等の枚数を配当する。各学科はこの配当額と本規程第5項を勘案して執筆予定者を決定し、これを6月末日までに紀要委員会に報告する。原稿の締め切りは9月末日とする。
7. 論文の執筆者の抜刷は50部までを無料とし、それ以上は実費負担とする。
8. 本紀要に掲載された論文等（書誌情報、画像情報、本文）の著作権（著作財産権、copy-right）は執筆者に属するが、執筆者は本学リポジトリなどへ電子化し、公共の利用に供すること、および、それに付随する複製権、公衆送信権の行使について日本女子大学に許諾する。

執筆要項

1. 原稿は横書き・縦書きいずれでもよい。
2. 原稿には欧文タイトル・ローマ字氏名・所属学科を明記すること。ただし欧文原稿には日本語タイトル・片仮名氏名・所属学科を明記すること。
3. 原稿はメモリースティック等電子フォーマットしたものと、プリントアウトしたものの2部とを提出すること。記録媒体には使用ソフト名と氏名を明記すること。
4. 校正は原則として再校までとし、著者が行う。

日本女子大学 紀要 文学部 第67号

平成30（2018）年3月20日発行

編集委員 内山加奈枝、藤井雅子

発行所 日本女子大学

〒112-8681 東京都文京区目白台2-8-1

電話 03(5981)3500(代表)

印刷所 株式会社ウイザップ

〒105-0012 東京都港区芝大門1-2-21

セゾンビル芝大門3階

電話 03(3431)3058

本誌掲載の諸論文は、執筆者の日本女子大学への許諾にもとづき、日本女子大学によって電子化複製され、公衆送信されます。

JOURNAL

Faculty of Humanities

67

- Notes on “Nakatsukasashu” (X)TAKANO Haruyo, TAKANOSE Keiko··· (1)
KATO Yuko, MORITA Naomi
SAITO Yukiko, SOWA Yukiko
HOUTSUKI Tamaki
- On ISHIKAWA Jun’s *Shion-monogatari*YAMAGUCHI Toshio··· (21)
- Influence of Utai on Nagauta “Kyoganoko musume doji” — Melody and Accent —
.....HAIKAWA Mika, SAKAMOTO Kiyoe··· (49)
- Notes on *Kitsune-no-soshi* in the collection of the Japan Women’s University Department of
JapaneseISHII Tomoko, DATE Mai, WATANABE Shoko··· (65)
YOSHIDA Satoyo, OTSUKA Chisato,
TAKEI Maho, FUJITA Yuriko, MIKAMI Mayu
- A Study of A Newly - Found Fragment of Man’ yōshūTANAKA Hiroshi··· (87)
- Orphans and Texts in the Works of Haruki Murakami and Paul Auster: The Use of
Memory and Imagination for Individual SurvivalUCHIYAMA Kanae··· (101)
- The Rise of Civil Rights Unionism during World War IIFUJINAGA Yasumasa··· (115)
- From Records to Tales —In the picture scroll “Kasuga Gongen Genki” —
.....TSUBOUCHI Ayako··· (135)
-
- On the Usage of Transitive and Intransitive Verbs in Sentences Connected with The
“Te” FormGODA Sumire··· (1)
- Two-pattern Accentual System of the Tanoura Dialect in Ashikita Ward in Kumamoto
PrefectureMATSUMORI Akiko··· (15)
- Paraphrasing the “Other”: Connecting Participants in Japanese Conversation
.....MACHI Saeko··· (39)
- Letters from Tokyo — by Xiao Hong: Translation and Notes (2)HIRAISHI Yoshiko··· (55)
- A Fundamental Study on Periods of Irrigation Ponds and Wells in Yamato
.....ITO Toshikazu··· (77)
- The Sudden Rise of Filature Silk — The Reeling Industry in Suwa District and Local
Sericultural IndustriesIKAWA Katsuhiko··· (91)

Japan Women’s University

2017